



伝染性紅斑（リンゴ病）

🔍 病気の説明（どんな病気？）

ヒトパルボウイルスB19による感染症で、両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」とも呼ばれています。春から初夏にかけて多く発生します。かぜ様症状から7～10日ほど経過すると、両頬に紅斑（皮膚が赤くなる）が現れ、続いて手足に網目もしくはレース状の紅斑が現れます。小児を中心に流行する症状の軽い感染症ですが、妊娠初期に感染すると、流産や胎児に異常を起こすことがあります。また、感染していても症状が出ない不顕性感染の人が25%程度います。

🔍 予防（感染はどう防ぐ？）

飛沫感染（咳、くしゃみなど）、接触感染（感染者の飛沫などに触れた手で、口や目などの粘膜を触ることによる）です。

潜伏期間は4～15日です。

予防には手洗いと咳エチケットが重要です。アルコールが効きにくいいため、日常的に触れるおもちゃなどの環境消毒には、次亜塩素酸ナトリウムを用います。



🔍 治療（感染したときは？）

基本的に対症療法です。多くは症状が軽いため、自然に治るのを待ちます。

🔍 登園・登校の基準

発しん期には感染力はないので、発しんのみに全身状態の良い場合は登園・登校が可能とされています。

（※ 感染力があるのは、かぜ様症状の出ている時期で、発しんが出た時にはほとんど感染力がありません）

🔍 詳しく知りたい方は [りんご病について | メディカルノート \(medicalnote.jp\)](https://medicalnote.jp)

🔍 横浜市の流行状況 [横浜市感染症情報センター 横浜市 \(yokohama.lg.jp\)](https://yokohama.lg.jp)

